

ミカン生育情報

千葉県
平成 19 年 11 月号

平成 19 年 10 月の気象

平均気温は、第 6 半旬が平年より 1.9 、第 2 半旬が 0.2 高かった他は、平年より 0.6~1.4 低く推移した。月平均気温は 17.7 で平年より 0.3 低かった。降水量は、27 日に台風 20 号が接近したためまとまった雨が降り、月合計降水量は 216mm と平年値の 86%となった。日照時間は、平年を下回る半旬が多く、月合計日照時間は 128 時間と平年の 93%であった。曇った肌寒い日が多かった。

表 1 平成 19 年 10 月の気象 (暖地園芸研究所)

半旬	平均気温		降水量 mm		日照時間 hr	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	19.2	20.5	2	41	18	20
2	19.0	18.8	32	70	17	20
3	17.9	18.6	4	35	14	21
4	16.4	17.8	23	46	22	22
5	15.7	16.3	0	30	32	24
6	18.0	16.1	157	28	24	29
平均/合計	17.7	18.0	216	250	128	137

早生温州の果実品質

11 月 1 日時点での果実品質を見ると (表 2)、着色の進みは全ての調査園で平年より遅かった。糖度は平年と比べ千倉地区で 0.7%、暖地園研で 0.4%それぞれ高く、三芳地区で 0.2%低く、全地区を平均すると 0.3%高かった。酸度は三芳地区と千倉地区でそれぞれ平年より 0.22~0.09%低く、3 地区平均でも 0.04%低かった。

8 月の少雨の影響を受け、早生温州の糖度は平年より高く、秋以降の適当な気温のため、減酸も順調で甘味比が高くなった。果肉歩合が平均 77.5%と平年より低いのは、9 月以降の降雨により果皮だけが肥厚したためと考えられる。

表 2 早生温州の果実品質 (平成 19 年 11 月 1 日)

調査地	着色程度		糖 度%		酸 度%		甘味比		果肉歩合%	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
三芳地区	6.4	7.7	9.3	9.5	0.86	1.08	10.8	9.1	75.0	80.7
千倉地区	7.5	8.4	10.4	9.7	1.14	1.23	9.1	8.0	79.3	81.2
暖地園研	7.5	7.9	9.4	9.0	1.22	1.02	7.7	9.0	78.3	82.6
平均	7.1	8.0	9.7	9.4	1.07	1.11	9.2	8.7	77.5	81.5

平年値は平成 5~18 年の平均値 甘味比 = 糖度 / 酸度

果実の生育

果実の生育を調査園3ヶ所の平均で見ると、横径および縦径の平年比が、早生温州ではそれぞれ98、101%、普通温州ではいずれも93%と平年並み以下となっている。これは8月の少雨の影響のためであり、排水が良く例年糖度の高いみかんが産出される園で特に影響が大きい。しかし果重は、平均115gで平年の102%であった。結実量が多いため、果実は大き過ぎず良形に揃っている。川野夏柑の果径は105、104%で平年をやや上回っている。

表3 果実の生育（平成19年10月30日）

No.	種類・品種	調査地	横 径	縦 径
1	興津早生	三芳村	6.3 cm (96)	4.9 cm (98)
2		千倉町	5.8 (91)	4.6 (93)
3		暖地園研	7.1 (108)	5.7 (112)
4	大津4号	三芳村	6.6 (94)	4.6 (93)
5		千倉町	6.6 (90)	4.7 (95)
6		暖地園研	7.0 (96)	4.9 (95)
7	青島温州	三芳村	6.4 (92)	4.6 (91)
8		千倉町	6.2 (86)	4.3 (85)
9		暖地園研	7.2 (101)	4.9 (97)
10	川野夏柑	暖地園研	9.4 (105)	7.4 (104)
	平均*	早生温州	6.4 (98)	5.1 (101)
		普通温州	6.7 (93)	4.7 (93)

() の数字は平年値（平成6～18年の平均）を100とした比数

* 早生温州： 1～3の平均 普通温州： 4～9の平均

11～12月の栽培管理

普通温州の収穫・予措 樹冠の外周部や上部の着色が早い果実を先に収穫し、樹冠内部の着色の遅いものは後から収穫する分割採収で行うのがよい。収穫のタイミングは、8分着色以上で浮皮が発生する前が適当である。果実の着色は貯蔵中にも進む。

果実の傷は腐敗の大きな要因となるため、収穫や選果の際は果実をていねいに扱うよう心掛け、また、果実が濡れている時は収穫をさける。

収穫した果実は予措を行い、貯蔵庫へ搬入する。予措は、果皮の水分を貯蔵前に減少させることで果皮及び果実の呼吸を適度に抑制し、貯蔵性を高めることができる。収穫した果実はコンテナに8分目くらい詰め、風通しの良い屋内におき、10日間ほど果実重を3～5%程度減少させる。浮皮の程度が著しい果実は5～6%の強めの予措を行い、早めに出荷する。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農業総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹研究室 電話 0470-22-2961
果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧になれます。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>